



発行所 愛媛県今治市大三島町宮浦  
日本総鎮守 〒794-1393

大山祇神社社務所

電話 (0897)82-0032

FAX (0897)82-0019

<https://oomishimagu.jp/>

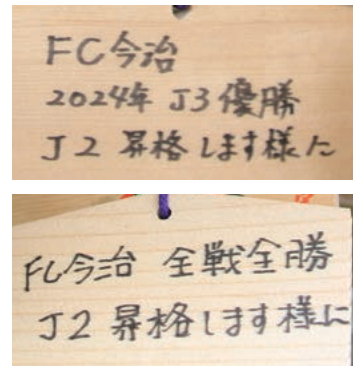
大三島海事博物館  
大三島大社講



紫韋威胴丸・兜・大袖付（むらさきがわおどしどうまる・かぶと・おおそでつき）

# FC今治必昇(勝)祈願

二月十四日、毎年恒例となったプロサッカーチーム「FC今治」の選手・監督・コーチ等関係者四十九名が参拝に訪れた。各々が絵馬に思いを書き込み、境内の絵馬掛けには「J3優勝」「J2昇格」「絶対昇格！」など、選手達の力強い絵馬が並んだ。その後、拜殿にて必昇(勝)祈願祭を行い、その甲斐もあってか、J3開幕戦から見事四連勝を飾った。昨年はJ3全二〇チームの中で第四位と、昇格まであと一步のところであった。念願のJ2昇格は目の前まで迫っている。今後この勢いを絶やさずにJ2昇格を達成し来年は、今年とは違う志を持った選手達の絵馬が並ぶことを期待している。



宝物さんぽ

第三回

大太刀 銘 貞治五年丙午千手院長吉

今回は、国宝「大太刀 銘 貞治五年丙午千手院長吉」についてのお話をいたします。

社伝では南北朝時代、後村上天皇御奉納の大太刀と伝わっています。

この大太刀は刃長一三六センチあります。現代の分類では刃長が三尺（約九〇センチ）以上ある大型の太刀のことを大太刀といい、大太刀は南北朝時代に流行しました。大太刀の中には、後の時代に磨り上げられ、打刀に仕立てかえられるものも多く、この大太刀のように、制作当時の刀身のまま現存するものは大変貴重です。



この大太刀を打ったのは千手院派の刀工長吉です。日本刀には名工を輩出した主な地域が五か所あり「五箇伝」と言われます。千手院派は大和伝（奈良県）の流派であり、大和伝の中にある大和五派という刀派の中でも最古の流派です。主に千手院谷（東大寺の子院である千手院堂があった）という地域を拠点とした刀工の一派です。

この大太刀を奉納した後村上天皇は、第九十七代天皇であり、南朝第一代天皇です。南北朝時代は、延元元（一三三六）年に後醍醐天皇が吉野に御移りになってから、元中九（一三九二）年に後

注釈

\*1 打刀（うちがたな）

現代の分類では刃長が二尺（約六〇センチ）以上の刀のこと。刃の向きが上向きになるように腰に差す。室町時代中期以降武士の間で流行。

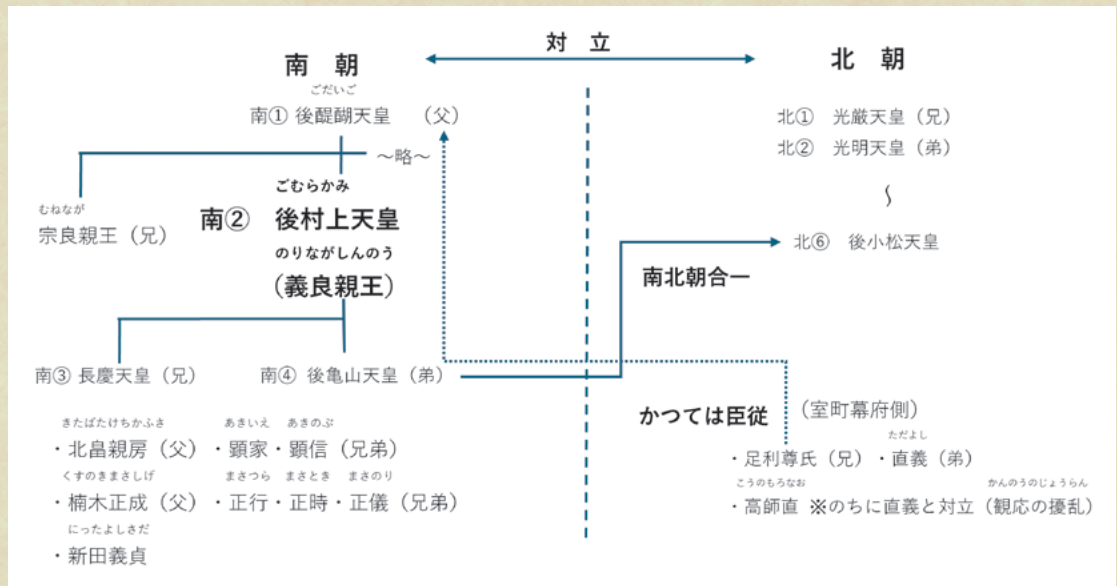
\*2 五箇伝（ごかでん）

大和伝（奈良県）・山城伝（京都府）・備前伝（岡山県）・相州伝（神奈川県）・美濃伝（岐阜県）。

\*3 義良（のりなが）

後に憲良（のりよし）が一般的だが、当社に奉納されている後村上天皇の兄護良（もりなが）親王の『国宝牡丹唐草文兵庫鎖太刀拵』の表記に合わせる。

龜山天皇が三種の神器を北朝の後小松天皇に渡すまで、朝廷が南朝と北朝に分かれていた時代のことで、元号も別の元号を使っていました。後村上天皇は後醍醐天皇の第七皇子（第八皇子説もあり）として鎌倉時代末期にお生まれになり、諱（実名）は義良と言います。鎌倉幕府滅亡の年、東北地方で南朝の味方を集め統率するため、北畠親房・顕家に奉じられ陸奥国の国府兼鎮守府の多賀城（宮城県）へと向かいます。しかし、足利尊氏が謀反を起こしたため、父の後醍醐天皇を助け、足利尊氏を討討する目的で親房・顕家と共に京へと向かいます。京で尊氏軍を破り九州へ敗走させた後、義良親王は多賀城へ戻りますが、態勢を立て直した尊氏が京を奪還し、後醍醐天皇は吉野に逃れ、南朝を樹立しました。尊氏は光明天皇を擁立し北朝を樹立、南北朝時代が始まりました。義良親王は、再び西へ向かい鎌倉を奪還し、美濃国で勝利を収め吉野へ入ります。しかし、尊氏は光明天皇から征夷大將軍に任命され、室町幕府を開きます。それからは更に形勢は傾き、行動を共にしてきた北畠顕家が幕府軍に敗れ戦死、更に新田義貞も幕府軍に敗れ戦死してしまいます。義良親王は北畠親房・顕信に奉じられ、伊勢国大



\* 4 北畠親房（きたばたけちかふさ）（一二九三～一三五四）後醍醐天皇、後村上天皇に仕えた公家。『神皇正統記』の著者。「後の三房」と称される一人。長男は、顕家（一二二八～一三三八）。

\* 5 北畠顕家（きたばたけあきいえ）（一二一八～一三三八）親房の長男。陸奥大介兼鎮守府將軍。後醍醐天皇、親王時代の後村上天皇に仕えた公家武將。後醍醐天皇に上奏した文（南朝に政治における問題点を諫めたもの）『北畠顕家上奏文』（『顕家諫奏』）を上奏した後、石津の戦いで戦死。

\* 6 足利尊氏（あしかがたかうじ）（一二〇五～一三五八）室町幕府初代征夷大將軍。一時、後醍醐天皇につくものの対立。後醍醐天皇の死後、対立関係にあったものの京都に後醍醐天皇を弔うため天龍寺を建立。

湊から船で多賀城を目指すのですが、大風に遭い吹き返されてしまい多賀城へと向かうのは断念し、吉野へ戻り皇太子となり、数か月後、南朝の第二代天皇として即位します。その翌日、父・後醍醐天皇は崩御しました。数え十二歳の時です。

即位後も一所に留まる事はできませんでした。即位から九年後、吉野行宮は高師直率いる幕府軍に焼き払われてしまい、後村上天皇は止む無く行宮を移します。その知らせを受けた兄・宗良親王は、信濃の地から後村上天皇へ歌を送ります。

『李花集』より「たちねの守りをそふるみ吉野の山をばいづち立ちはなるらむ（父の魂が守ってくれている吉野を捨てて、いったいどこへ移ったのだ）」という歌です。後村上天皇は、「ふる郷となりにし山は出でぬれど 親の守りは猶もあるらむ（もはや故郷ともいえる吉野の山を離れてしまったけれども猶も父はお守りくださっています）」と返歌をします。どちらの歌も吉野への思いが窺えます。

そんな中、足利一族の不和から争い（観応の擾乱）が始まります。足利直義が南朝に降伏し、のちに尊氏が降伏し、北朝の天皇が廃され、南朝が唯一の朝廷となります（正平の一統）。しかし、

それも数か月のことでした。その後も戦に次ぐ戦で行宮を山城国（京都府）、河内国（大阪府）、摂津国（同）へと移します。その間にも親房をはじめとする廷臣たちが相次いで亡くなります。父の遺志を継ぎ天下一統を目指していた後村上天皇でしたが、和議へと気持ち傾いていきます。しかし、条件が合わず生前は叶いませんでした。正平二十三（一三六八）年、三月住吉行宮にて後村上天皇は崩御されました。その後、南朝は長慶天皇、後龜山天皇と続きます。楠木正儀らの奔走により南北朝合一となったのは後村上天皇の崩御から二十四年後のことでした。

この大太刀の銘から貞治五（一三六六）年に打たれたものということがわかります。北朝側の元号が使われている理由は不明です。南北和議に向けての歩みよりだったのでしょうか。南北朝合一から十年後、後龜山天皇は「南北朝合一にふみ切ったのは、永年の争いを止め、民間の憂いを除くためだった『吉田家日記』」と心の内を語っています。後村上天皇の心の内は想像するしかありません。この大太刀にどのような想いを込めたのでしょうか。

\*7 新田義貞（にったよしさだ）（一三〇一～一三三八）

南朝方の武将。難攻不落の鎌倉を攻め落とした鎌倉幕府滅亡の立役者。

\*8 行宮（あんぐう）

行宮とは「かりみや」ともい、天皇の行幸時や政変などの理由で御所が失われている時に、その地に設ける仮の宮のことで行在所ともいう。

\*9 楠木正儀（くすのきまさのり）（一三三三？～一三八九？）

楠木正成の三男。湊川の戦い（一三三六・兵庫県）で父・正成を、四条畷の戦い（一三四八・大阪府）で兄・正行、正時を失ったが、和議に奔走する。後村上天皇の死後、一時幕府側につくが、再び南朝へ戻り、南北朝合一に貢献した（南北朝合一前に亡くなる）。

# 新任挨拶



出仕  
江本 武宣

今春に國學院大學神道文化学部を卒業し、令和六年四月一日付で出仕を拝命いたしました。高校卒業までは故郷である岡山県で過ごし、國學院大學では四年間、学生として授業や課外活動等で神職の勉強に励んでまいりました。

この度、御縁ありまして、古来より日本総鎮守と尊称され、朝廷や武家からも厚く崇敬されてきた格式高い大山祇神社にご奉仕することが叶い、大変光榮に思っております。

浅学非才の身であり、神職としても社会

人としてもまだまだ未熟ではございますが、一日も早く大山祇神社の神職として相應しい神明奉仕ができるよう邁進してまいります。ご迷惑をおかけすることもあるとは存じますが、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



内子見習  
木村 涼伽

令和六年三月二十八日より内子見習として奉職致しました。

大山祇神社という歴史ある神社に勤められることを大変うれしく思っております。

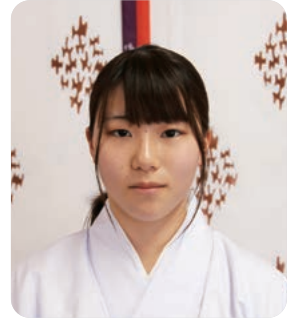
まだまだ未熟で神社のことも大三島のこと

もわからないことが多く、皆様にご迷惑をおかけすることも多々あると思っておりますが、皆様に気持ちよくご参拝いただけるよう、笑顔で一生懸命がんばります。初心を忘れず謙虚な気持ちで日々のご奉仕に励んでまいります。ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。



内子見習  
高村 つぐみ

三月二十八日付で内子見習として奉職致しました。神社の事、言葉遣い、大三島の事も知らないことが多く、迷惑をおかけすることもありますが、これから大山祇神社で多くのことを学んでいきたいと思えます。常に笑顔で礼儀正しく一生懸命取り組んで参ります。日々の精進を肝に銘じて頑張りたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



内子見習  
上松 沙羅

三月二十八日付で内子見習として奉職致しました。歴史ある大山祇神社に勤められることを大変うれしく光栄に思っております。幼い頃からの夢であった緋色の袴姿に身を包み、私自身刀剣に興味を持っておりますので、国宝を感じながら日々ご奉仕させていただきます。ご参拝される方には、もう一度参拝したいと思っております。そして何より笑顔を大切に、ご奉仕に励みます。ご指導のほど、宜しくお願いいたします。



内子見習  
大塚 美緒

三月二十八日から内子見習として奉職致しました。偉大なる大山祇神社に勤められることを大変うれしく光栄に思っております。清らかな姿を見かけるたび、巫女への憧れが日々強くなってきました。十八歳になり、「内子」という形で勤められることをうれしく思い、懸命にがんばりたいと思っております。まだ神社のことを深くは知らず勉強不足の面もございますが、一人前の「巫女」として大山祇神社にふさわしい姿になりますので、ご指導のほど宜しくお願いいたします。

表紙の写真について

令和五年度国庫補助事業で重要文化財紫葦威胴丸・兜・大袖付（むらさきがわお

どしどうまる・かぶと・おおそでつき）の保存修理が終了しました。

また、平成三十一年二月十五日付で指定の「太刀 銘 和泉大掾藤原國輝 享保二十乙卯年二月吉日」並びに「太刀 無銘」

辞 令

令和六年三月二十八日

木村 涼伽

高村 つぐみ

上松 沙羅

大塚 美緒

内子見習を命ずる

令和六年四月一日

江本 武宣

出仕を命ずる

出仕 柚木 郁彦

主典を命ずる

大山祇神社

に引き続き、令和六年二月十六日付で「太刀 無銘」、「大太刀 銘 石州和貞作」の二点が愛媛県指定有形文化財に指定されましたのでご報告いたします。

# 例大祭の御案内

大山祇神社例大祭を来る五月二十九日(水曜日)(旧暦四月二十二日)に斎行致します。

例大祭とは、当社の最も重要な祭典であり、当社の御祭神大山積大神様が現社地に遷座された養老三年(七一九)、旧暦四月二十二日を祝って、現在も行われている、歴史ある大祭でございます。

昨年より通常通りの斎行をしておりますが、参拝に際しましては、混雑している場所では、適宜マスクをご着用ください。また、例大祭期間の御祈禱受付時間やご朱印対応等に関しましては、随時更新致します当社ホームページを御覧ください。  
尚、当日御参拝頂けない皆様に替わり貴家又貴社の御尊名を御神前に奉奠し、家内



安全・事業繁栄の特別神楽祈禱を執り行っております。

ご希望の方は【大山祇神社大祭神楽祈禱申込簿】をお渡しいたします。名簿に御家族、又会社・事業所の名前を記入のうえ大三島・大山祇神社事務所までお送りください。大祭に併せて祈願祭を厳修の上、神楽祈禱神符をお送り申し上げます。

五月 二十八日(火) 午前十時  
御 更 衣 御 戸 開 祭

五月 二十九日(水) 午前十時  
例 大 祭 併 講 社 大 祭

五月 三十日(木) 午前十時  
後 宮 祭

住所等の変更、送付物の停止等に関しましては、ご一報いただけますと幸いです。



アンケートはこちら

## 大三島宮祭事暦

令和六年五月～令和六年七月

五月 一日	一 日 祭
五月 二十二日	月 次 祭
自 二十二日 至 二十八日	宇 迦 神 社 祈 晴 祭
二十七日	神 殿 清 掃 祭
二十八日	御 更 衣 御 戸 開 祭
二十九日	併 例 講 社 大 祭 祭
三十日	後 宮 祭
三十一日	宇 迦 神 社 祈 晴 奉 賽 祭
六月 一日	一 日 祭
十日	御 田 植 祭
二十二日	月 次 祭
二十七日	全 国 鉾 山 工 場 安 全 祈 願 大 祭
三十日	大 祓 式
七月 一日	一 日 祭
十九日	五 穀 豊 穰 祈 願 祭
二十二日	月 次 祭